

# 生き物のネットワーク

## 豊かな北の海・対馬暖流の恵み

この地域の海には、東シナ海で生まれ日本海を北上する対馬暖流から分かれ、宗谷海峡を抜けてオホーツク沿岸まで達する宗谷暖流が流れている。また、全体が大陸棚の上にある比較的浅い海であるため、生物の種類が多い。



### トド、アザラシ、海鳥類の生息

この公園の海域には、冬季ゴマフアザラシなどのアザラシ類やトドが回遊してくる。ときにはオットセイの姿を見ることもある。夏季には、利尻島ではウミネコとオオセグロカモメが、礼文島のトド島ではケイマフリが繁殖する。このほか移動途中のアカエリヒレアシシギやミズナギドリ類の大群に出会うこともある。

ゴマフアザラシ



### オオヒシクイ

ヒシクイは大型のガンで、ヒシクイとオオヒシクイという2亜種が日本に渡来する。オオヒシクイはカムチャツカなどで繁殖するものが日本に渡来している。ルートはコハクチョウとほぼ同じで、カムチャツカからサハリンを経由して北海道北部に上陸し、北海道西岸を南下して本州に向かう。

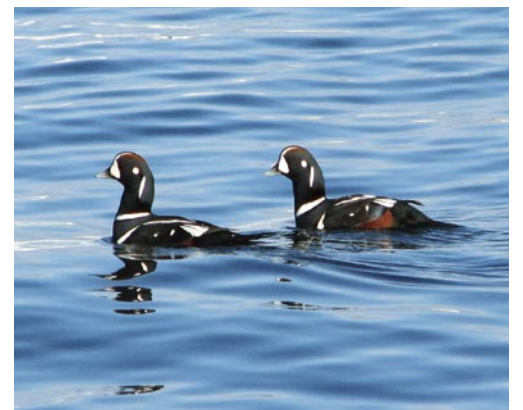


コハクチョウ

### ハクチョウ類

日本に定期的に渡来するハクチョウ類はオオハクチョウとコハクチョウの2種である。このうち、オオハクチョウはシベリアのタイガ地帯で繁殖し、サハリンから主に北海道東部を経て太平洋岸を南下する。

一方、より北方のツンドラ地帯で繁殖するコハクチョウは、サハリンから北海道北部に上陸し、サロベツ原野やオホーツク海岸のクッチャロ湖に入って翼を休める。そして、ここから北海道西岸の天塩川や石狩川の本・支流をたどって南下し、苫小牧のウトナイ湖を経て本州に渡り越冬するのである。春はこの逆のコースをたどって北上し、繁殖地に戻って行く。



シノリガモ

### 渡り鳥の中継地

サロベツ原野は、多くの渡り鳥の移動ルート上にあり、休息と栄養補給の場所として、重要なところである。このため、一帯は平成17(2005)年に湿地保全のためのラムサール条約に登録されている。また、周辺海域にはシノリガモなど多くの冬鳥が渡来する。

### 渡り鳥(ガン・ハクチョウ類)の主な経路



マガン